

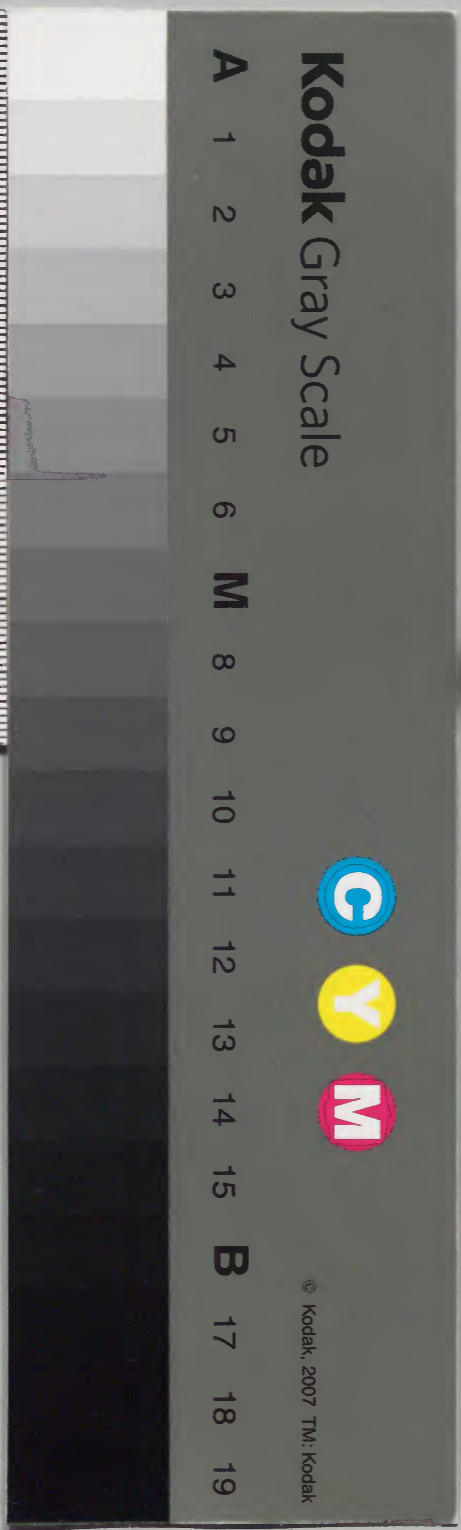
日本書紀傳 三十卷

和 一〇五二號

百六

内閣文庫		
番號	和	10522
冊數	156	(115)
函號	特 85	1

和 一〇五二號







此神社の鳥居の傍に宇那を森と云有り夫木集の大御言降房神の坐す即名手社を朝行け戸を午向て子鳥鳴も此と有ハ此社ありあり大和国宇奈保社に有ハハ此と事代主神の御在すなり

野神社ハ傳廿八 丁子注 此右の播磨國の高野社と同トくハ玉依姫命子渡り也給ふ可くヤ知名抄子高野美和賀茂の三郷有子由有り又中山神社名大傳九七丁子注一奉らる如く美濃國不破郡仲山金山彦神社名神と同神子渡り也給ふ御事申すハ更なるを一宮記ハ大己貴命云ハ難捨事ハ山ハ金山彦神のト給へるあり 彼真鏡を韜立させ給へるハ此大己貴神子御在し坐し見えて其由丹後風土記伽佐郷の下子所見たり又三代実録子貞觀十七年三月廿九日壬子授美作國從五位下御鴨神從五位上と

今本國神名帳從三位美和神有り

有ハ真鳥郡美甘郷見えたり是ハ今も三鴨と云り又大井郷有ハ必鴨神子所以有る事已に注るが如く又米郡大井郷有り又倭文郷と云し有ハ此相隣也伯耆國久米郡倭文神社御在し坐し思合す可記上百十六丁子注其地ハ大鴨小鴨上神下神の四郷有ハ大物主神事代主神子謂有る地名あり其倭文神社ハ一宮記ハ神名式子備前國邑久郡美和神社下照姫命と見ゆ 傳ハ大山咋神亦名片山日子命と云片山日子神社 傳ハ大山咋神亦名片山日子命と云り此ハ傳廿六 二百七十 子注る如く片岡神の御事ありを大山咋神の亦名と爲るハ二神相並び坐し依て混化たり者ありけり又安仁神社名神 統後紀子美和八年二月己酉備前國邑久郡安仁神額名神焉と見え(本國

大國類聚方八三  
希郡葉滿南國和  
飯成之秘傳多且  
方元者同國邑久  
郡安仁神社乃神  
也之所見多

神名帳ハ正二位安仁大明神と有り姓氏録子知仁  
古大國主命六世孫阿田賀多須命之後也と有知仁  
と安仁と言相通右二座ハ注ヲ受テ前國丹生郡元子神社と此と同列アリハリ又帳子從三位神前明神今神前  
村子立せ御在し坐と云り此神の説ハ上百七十小己  
子注カ如く神后の義ふり又從五位上松江伊都  
岐明神ハ謂ゆ市杵島姫命子御在し坐べく又從五  
位上湯次明神ハ式子近江國淺井郡片山神社二座湯  
次神社伊香郡神前神社と坐と此と同トキカスを風土記子湯須神云々所祭御名賀多也と  
有子符合へり又赤坂郡鴨神社三座和名抄子葛木郷  
有り式子謂ゆ大和國葛上郡鴨都波八重事代主命

神社二座並名神大月と有子思合す可但帳子ハ正  
四位下鴨高國明神正四位下鴨上松原明神山四位下  
鴨新田明神と有ハ當郡子鴨某明神と申す九社の中  
子神階も最高く御在し坐せハ此三座子や當り可  
了又注ハ鴨山城同と云り大和葛上山城あり同神子坐せ坐へり又宗形神社帳子從四位上宗形明神と見ゆ又石  
上布都之魂神社ハ傳廿六六十子注せるが如く此第  
三一書子其素戔鳴尊断蛇之劍今在吉備神部許也と  
有る神部ハ大己貴神の裔あり帳ハ從四位下布津明神と有りけハ當者此子其神  
劍を齋きて此子住へりありけり布勢神社ハ出雲  
風土記子仁多郡布勢郷云々古老傳云大神命之宿坐

帳より三位神根  
大明神と有り此

之處故云布世神皇三年と有り其地より勸請れり  
可きハ帳帳正四位下布施巨明神正四位下鴨布施  
明神從四位下攝村布施明神正五位下天降布施明神正五位下鴨布施明神鴨字を冠なりを見ルハ布勢君等の祖神  
坐卜又帳帳正四位上片山明神ハ右の如く從四位  
下湯山明神ハ彼清之湯山主命あり可く又從四位上  
石淵鴨部明神ハ右謂吉備神部の祖神坐心  
きを思合す可く又從四位下鴨長尾明神正五位上  
鴨常普明神正五位下賀茂社ヲワザキノ前明神と有ハ右鴨神社  
の縁の神等坐心正五位下松尾明神ハ大山咋神  
よて渡り給ふ事申すも更あり又和氣郡神根神社

△有を以て証す可  
上三丁隱岐國海部  
伊勢守神社名神の  
所を考す可  
此を五瀬命と  
云はるに據るに説  
あり

△事前より由有る事  
あり

神峯あり可く其赤坂郡正五位下神根歲彥明神  
と有り據て索るに神名式あり若狹國遠敷郡弥和神  
社を其國帳に三輪大歲彥明神大歲姫明神と有ハ大  
神大物主神の亦名あり可きを思ふに大く大三輪神  
子御在ハ坐心又正五位下神峯伊勢明神ハ少彦  
名神子御在ハ坐心大同類聚方知氣系又神根系云云元有少彦名神也  
又從三位神峯神社御在ハ坐心を右の例以て推す時  
ハ決く大己貴神子御在ハ坐心然るに民部省圖  
郡神根大明神神貢五十八束八束有余田神靈水花咲  
耶比賣云神根云社云北云右云赤坂郡云島郡云又其赤坂郡  
下木葉佐久耶比呼明神と云ハ所見なり

又和氣郡正三位  
大天神八事代主  
神坐事下音  
四十五丁云々

天大徳津明神ハ天大徳ハ天大歳の義ナリ津  
明神ハ傳ハ八卷ナリ丁ニ注ルケル如ク五十猛神  
申奉ル例アリ又神名式ハ上道郡大神ニ社四座帳  
ハ此御社と思ヒキハ無ク從二位深田大明神坐  
道郡と見え又上東郡正一位福岡大明神と申すハ  
各後の地名を以テ称スルハ此二社の中多ク又正三  
位布施明神と申す有リ此ハ大己貴神と渡ルセ給  
ベキ事右ニ注ルケル如ク又正五位下天鴨明神と申す  
も見ユ又式ハ御野郡天神社國神社坐ハ大己貴少彦  
名神と坐す事諸國の例皆然リ帳ハ從四位下國津  
明神のニ有リ又伊勢神社帳ハ從四位下伊勢明神と

有リ即少彦名神と坐ベキ由己ナリ右ニ注リキ津高郡  
鴨神社帳ハ從四位下鴨明神と見ユ即和名抄ハ賀茂  
郷有テ今ハ賀茂村と云々上下二社立セ御座一坐  
云リ又宗形神社帳ハ見えズ又式外從四位上神明神  
從四位下多自括鴨明神從四位下多自括布施明神  
有テ多自括ハ今日地子村と云地名アリ又兒島郡鴨  
神社今在長尾村称ハ幡と云ハ帳ハ正五位上八幡  
明神と有テ是ハ抑賀茂御祖神ハ一ハ玉依姫命と申  
奉リテ即八幡大神と渡ルセ給ハ乃由傳ハ十八  
ニ注ル如ク亦ハ玉依姫命を以テ八幡明神と申す

此長尾村の老古  
神に申す見元たり  
磐梨郡ハ式社無ク  
一ツ帳ハ  
從ニ位雨垂布施大明神の雨垂ハ發語ニテ天足より  
伏と統けりて向伏の義ニ云係たりあり正四位下  
神明神從四位下賀茂明神も有て國作の古跡床  
キ共多在りけり右ハ備前國にての較略あり但當國  
造本紀ニ笠臣國造輕島豐明朝神元封鴨別命八世  
孫笠三枚臣定賜國造之有ル其鴨別命を祀れるも  
有べきが其ハ此地ニ封させ奉る事ニ因ルり  
りけり元より事代主神ニ就て鴨の地ハ有し事申  
すし更なるハ其心して考ふ可なり又布施神社ハ古  
事記明宮段ニ若野毛ニ候王子意富押至者云云布勢  
君等之祖也と有し其布勢の地有て後の事あり

ハ然も有ぬ可き御事ありけり一又從五位下國津明  
神ニ申す見元たり磐梨郡ハ式社無ク一ツ帳ハ  
從ニ位雨垂布施大明神の雨垂ハ發語ニテ天足より  
伏と統けりて向伏の義ニ云係たりあり正四位下  
神明神從四位下賀茂明神も有て國作の古跡床  
キ共多在りけり右ハ備前國にての較略あり但當國  
造本紀ニ笠臣國造輕島豐明朝神元封鴨別命八世  
孫笠三枚臣定賜國造之有ル其鴨別命を祀れるも  
有べきが其ハ此地ニ封させ奉る事ニ因ルり  
りけり元より事代主神ニ就て鴨の地ハ有し事申  
すし更なるハ其心して考ふ可なり又布施神社ハ古  
事記明宮段ニ若野毛ニ候王子意富押至者云云布勢  
君等之祖也と有し其布勢の地有て後の事あり

又此多郡神代  
之郡ハ蘇我國  
郡出雲國出雲郡  
ニ神代社見えたり

山神社式社考ハ在三輪村と云り足高神社和名抄  
ハ阿智郡有り味耜高彥根神ニ坐する又賀夜郡大井  
井於係郡有り又大石之於係郡有ハ上十下十引り播磨國  
上記ハ謂容郡有濃里云々又日子玉足比賣命生子  
大石命見元たり下道郡神社後月郡足次山神社和  
名抄ハ足次阿須郡と云有ハ波ハ伎の語あり駿河  
國安倍郡足环神社近江國大上郡阿目岐神社二座越  
前國今立郡阿須疑神社出雲國出雲郡阿須伎神社神  
阿須伎神社と皆味耜高彥根神と渡り給へり  
ハ思合ナ可き事共あり又英賀郡ハ播磨國揖保郡



小也英賀<sup>加</sup>郷有て上<sup>百三</sup>子引<sup>十</sup>其風土記<sup>子</sup>英賀里  
上中 右称英賀者伊和大神之子阿賀比名阿賀比貴二  
神在於此處故因神名以為里名と有<sup>思</sup>之及<sup>不</sup>可  
き者<sup>あり</sup>なり<sup>り</sup>又備後國沼隈郡高諸神社の出雲國  
意宇郡<sup>佐為神社</sup>佐為高寺神社二所御在<sup>一</sup>坐之風土記<sup>子</sup>狹  
井社狹井高寺社と作り即大和國城上郡 狹井坐大  
神荒魂神社五座<sup>歟</sup>と有<sup>其</sup>同神と思<sup>一</sup>き<sup>ハ</sup>三代実  
録<sup>子</sup>貞觀三年十月廿日 備後國正六位上大神神  
授從五位下と有<sup>是</sup>あり又沼名前神社の沼<sup>ハ</sup>沼隈  
の沼<sup>ハ</sup>非<sup>テ</sup>瓊の言あり可<sup>一</sup>瓊之戶神と申す事<sup>ナ</sup>

て謂<sup>イ</sup>ゆる宗形大神と御在<sup>一</sup>坐<sup>子</sup>也同録<sup>子</sup>元慶二年  
十二月十五日 授備後國無位隱島神從五位下と  
有<sup>ハ</sup>此より外<sup>子</sup>當<sup>ハ</sup>心<sup>キ</sup>神御在<sup>一</sup>坐<sup>子</sup>あり隱<sup>ハ</sup>意  
伎と訓<sup>ハ</sup>例<sup>ハ</sup>陸奥國安積郡隱津島神社有<sup>是</sup>あり  
又葦田郡賀武奈備神社<sup>上</sup><sup>百二十三</sup>子注<sup>セ</sup>り丹波國  
何鹿郡河牟奈備神社<sup>隱岐國吉郡</sup>賀茂郡備神社と同<sup>ト</sup>くハ事代  
主神<sup>子</sup>渡<sup>リ</sup>給<sup>ル</sup>可<sup>キ</sup>御事申すも更<sup>ナ</sup>り  
又三代実  
録<sup>子</sup>貞觀  
二年二月廿八日 授備後國正六位上大藏神神田  
神並從五位下と有<sup>大</sup>藏神<sup>ハ</sup>地神本記<sup>子</sup>下照姫命  
坐<sup>倭</sup>國高上郡雲梯社と有<sup>其</sup>あり神名式<sup>子</sup>大倉比賣  
神社一名雲梯社と有<sup>是</sup>あり神田神<sup>ハ</sup>大己貴神<sup>子</sup>  
御在<sup>一</sup>坐<sup>ハ</sup>由<sup>上</sup>三十一<sup>下</sup>江國滋賀郡神田神社  
の<sup>下</sup>云<sup>リ</sup>和名<sup>抄</sup>子<sup>是</sup>沼郡神田郷有<sup>是</sup>あり又

神石郡三坂郷有を大同類聚方三坂系云云  
命方之云事見此傳十九卷百七十八丁云又  
甲奴葉矢野郷有ハ八野若日女命の御名由有り又  
三上郡多可郷ハ右ノ注セリ播磨國多可郡の故事ハ  
思合十可ノ神代郷ノ事ハ右ノ注リ世羅郡大田郷ハ  
大田ノ根子命ノ由有リ猶志蕪郡帝釈山ハ大己貴  
神ノ神迹多シ事其卷又上一五丁ノ注セリ如ク江島  
百六十一丁ノ注セリ又上一五丁ノ注セリ如ク江島  
社記ハ大己貴命久延彦命合カテ管相摸江島安藝  
巖島駿河御嶽之云事有リ但神名式ノ謂ウ安藝國  
佐伯郡伊都伎島神社名神ノ鎮リ御在ノ坐す御事ハ  
欽明天皇の大御代ノ御事ふれども本より其御幽契  
御在ノ坐す御事ありけり其大元社ニ申すハ地主神  
ニテ獲ル也御在ノ坐す云ハ必此國作ノ御時より

公東大寺天平草周  
防國正統帳小奉  
參所神社類柄拾  
取以神命熊毛神  
社云出雲神社  
云御坂神社云  
有て古より名  
高御社ニテ獲  
ル給へり

御在ノ坐す初たりありけり和名枚ノ賀茂郡賀茂郷  
有リ高屋多加郷ハ出雲風土記神門郡多伎郷ノ謂申  
ス阿陀加夜努志多伎吉比賣命ノ由有リ又山縣郡ノ  
古賀茂郷有リ又神名式ノ周防國佐渡郡出雲神社ニ  
凡上記ノ出雲神社在下徳地村祭神倉貴命事代主命社号ニ宮主田五才庚有リハ  
座出雲神社考ト云物ト云得地郷ニ村ノ鎮坐祭神  
大己貴命事代主命末社字佐八幡宮若宮八幡宮社傳  
云元正天皇靈龜元年建立正月六日八月十五日十一  
月初申日神祭有リ就中八月十五日を第一ト云云  
鳥居の傍ニ長キ石二並立リ土を出入一丈許横僅  
ニ二尺許あり降臨石又影向石ト云云又大宮司門前

の田中より神石有り借此社の前より佐波川と云ふ大  
川有り府中の北を流る此社より一里下流より御坂神  
社有り大國主命を祀る此鳥居の前より又二長石立り  
略と有ハ実より神代思めり一き所あり三代実録より貞  
觀九年八月十六日壬午周防國正五位上出雲神授從  
四位下と見え作并説東寺の古文書より維元永二年己亥當國  
鎮守正一位出雲兩所大明神宇豆廣前仁國司從四位下行  
藤原朝臣家保恐美恐毛令申事由波云々と有て神寶  
を奉れり文有りと云り又御坂神社ハ大國主命より  
由右小出たりが如し筑後紀より兼和五年閏正月丁亥

又社説に神功皇后三  
韓所進治の時夫秋  
降伏の爲八握劍を  
神作より奉り鳴響  
と奈治云と云り

言敷郡仁磨神社在  
山口谷称三宮傳云美  
簡男中前男后尚男  
命時相高彦限年  
下照姬命を祀り  
云ハ都濃郡仁磨神  
社在三溪村空神ハ  
神大物主神又一説ハ  
健御方神と云り  
昔に世有る事あり又

奉授周防國元位三坂神從五位下三代実録より貞觀九  
年三月十日云周防國云位云三坂神授從三位と  
有り上百九十丁注せり播磨國美囊郡御坂神社の御  
事より考合す可し又劔神社ハ素戔嗚尊より坐し云り同  
録より貞觀九年八月十六日云授周防國從五位上劔  
神山五位下と見ゆ冬傳十五四百二注さる如く當  
郡式外勝間神社國津姫神社共より三女神にて御在り  
坐ふと神代より殊より所以深く思えたり又都濃郡二  
侯神社ハ社傳より健御名方神天より降氷より神等より追  
氷奉りて須波と云て始て逃出給へり地よりと云り

又熊毛郡美和郷吉敷郡神前郷宇努郷有る此二ハ上  
ノ注ニ播磨國神埼郡又揖保郡宇野郷の故事考合テ  
可一八千郷ハ八千戈神の略々又神名式ニ謂フ長  
門國豊浦郡村屋神社ハ大和國城下郡村屋坐野郡都  
比賣神社大月次相同トウ多可キを厚狹郡見穂郷  
有リ又豊浦郡神田郷有リ美祢郡諸鋤須郷ハ鋤  
ト聞えて國作の御事ニ謂有リ大津郡三島郷ハ三島  
鴨神ト由有テ思ウリ又大同類聚方ハ阿可萬奴  
冷薬長門國赤間稻置之傳方元者大穴持命之神方又  
十九ノ袁可之麻薬長門國赤間稻置之家ニ世々所傳

秘之方元者大已貴尊之方也ト有る赤間ハ豊浦郡不  
凡ハ村屋神社ト引合ズト非ズト  
諸文徳天皇實  
録ニ仁壽元年  
冬十月己亥朔丙午長門國鹿集神社五位下ト有る  
鹿集神ト申スハ大已貴神ハ御在ト坐ガリト有る  
廿六卷ト加之袁菜木國香集麻呂之家仁傳流葉元者  
大名持神乃神大周理ト有る是ガリ猶能正ト見ル可  
キ事ト又神名式ト紀伊國名草郡朝掠神社御在ト坐  
ガリハ傳亦六十廿八ト注ラケ如ク大已貴神八十  
神の爲ニ寤ルレサセ御在ト坐ケル頃御祖命の御赴  
ケル大屋毘古神の御許ト御在ト坐ケル時の故事  
有る所ガリ志摩神社名神ト聞ウハ謂ウ三女  
神ト渡ラセ給ヘルト相殿ト坐國魂神の御在ト坐

ハ國作の御迹思ゆ宮居あり又傳十三四十 丁下 七九四  
貴神ヲ渡三有セ御在一坐一又海部郡寸事下七百四子賀茂谷賀茂川  
式外賀茂神社御在一坐一又在下田郡湯淺莊下國主  
神社本國神名帳子國津神と見えたる是あり或書ハ  
云く社傳子天曆の頃大和國三輪臣の弟阿部播司と  
云人子三輪大神と託有リ昔より紀伊國海邊の巖子  
大己貴命出雲國より鎮坐有リ此處を尋て祭リ可し  
と有一ハ同年九月より始て加太浦邊より尋巡リ  
十一月午田浦子來り晝寐たり夢ニ素戔嗚尊託宣有

り其日暮て海邊子臥一たり時神出現有て二百余年  
此所子鎮坐一給ふ略と云らハ神代ハ鎮座を二百余  
年と傳誤たら又本國神名帳子日高郡正二位御崎  
大神と申ナ有リ謂ゆ日御崎社是あり三代實錄子  
貞觀十七年十月十日 授紀伊國正六位上三前神  
從五位下と有リ若くハ傳廿三三百 子注せり出雲國  
日御崎社と等一く大己貴神妹妹二柱子御在一坐  
ベッりけ又同帳子那賀郡從三位浦上國津姫大神  
と有リ三代實錄子仁和元年十二月廿九日 授紀  
伊國正六位上浦上國津姫神從五位下と有リ是あり

小注せり周防國の例ありむよ三女神を渡りて  
鈴ふ可き御事申すに更ふれば體あり古傳に見えず  
と雖も神代の神迹ふむ思ふゆら御事ありけり又少  
神と二柱の御事ハ巳子傳廿九卷百八十丁に注るが  
如し又當國の須佐大神以下の神迹甚多在り御事  
ハ一有けれハ此大己貴神の御事ふむ其の中混  
ルも多う可けれハ今何れを其と分て難言事  
あり傳廿九丁に注るが如く淡路國三原郡大和  
大國魂神社名神御在り坐り大同類聚方六十九子久  
仁玉藥淡路國三原郡國魂神社傳方略元波少彦名命  
乃神藥也と所見なるハ神代より其神を相共り鎮り  
御在り坐す御事あり故に其神方の此子傳ハれり

ありけり又津名郡賀茂神社和名抄に賀茂加郷有り  
郷廢れて今加茂村の名遺れりけり其村に立せ御在  
り坐ふむ決り其神社とて有べき又由良湊神社延喜  
式に謂り由理驛是あり紀伊國加太浦に相向ひて  
又其國の由良湊も斜に向へり地ありけれり神  
社の此に御在り坐を見れば此地ふむ本に有るに  
上百二十丁に注せる隱岐國知夫郡由良比女神社名  
大元名和を頭注る大己貴命后須勢利姫命也と見  
多須神  
名九と相同し御在り坐す御事ハ申すも更あり  
右の大國魂神社ハ荒魂神に御在り坐すハ其を除て  
子此國に大己貴神の御社と思しきハ何れハ其と思

寄りし見えずありけり大同類聚方十一津  
名葉路國津名郡津名里那射長埜麻呂之家二傳累  
處之方元者大穴年智命之神方十四阿波治葉  
路伊佐奈伎神社尔傳流方其元者大已貴命乃神玖  
須離奈利神齋大神資古奏之十八路葉津名郡伊  
佐奈岐神社二傳方元者大穴持命神方也并六南岐  
葉路國津名郡路伊佐奈岐神社之神方當社仁大  
穴持命乃神方傳不留葉十六方阿里其一方是奈里と  
有ふとい何れも路伊佐奈伎神社名神傳り此も  
共あり此六大神氏大の其神社に仕奉り縁より由て然

るふり見以て行く津名葉路葉あぐ其國郡  
の名を負い大神の御名を略きて南岐葉あぐ云を以  
見古くより其國傳り此も方ありけり甚可畏  
き推量説より有北も南岐葉の稱有て大穴持命乃  
神方と云を見れば此多賀宮ハ一傳十五丁注  
る如く大神の御目自攝立させ御在り坐けり幽宮ふ  
る御事ハ然る物にて大已貴神不始て齋奉を給ひ  
ふど為させ御在り坐けり御由縁にて此徒祀齋り  
れさせ御在り坐けりありむり出雲國出雲郡并葉  
大社名神御在り坐り其地も同社神伊佐那伎神社

御在坐即此神の持齋き奉らせ給へる御由縁  
 ころハ伺奉らる御事ありけし其ハ近江國犬上  
 有ハ二柱御祖神にて御在坐す御事申す更ふり  
 然ら上四十丁云ら如く同郡何自岐神社二座  
 有ハ味高彦根神坐せり今一座ハ大己貴神  
 御在坐す所以を神名式ハ阿波國阿波郡事代主神  
 求めて知ら事あり社此ハ神功皇后元年御紀子於尾田吾田節之淡郡之  
 有也亦有耶答曰於天事代於虚事代玉籙入彦巖之事  
 代神有之也と有て此時子推日女尊事代主命共子此  
 阿波國より顯水させ御在坐て征韓の御政を助け  
 聞えさせ給へるを以見奉れば神代より此子御在

今伊月村事代大  
 明神と申すなり

今名抄大鳥大  
 御有謂ゆ中  
 瀧の石方ル此  
 申有御事  
 ヤ又横田神社建  
 社出雲國島根郡  
 多氣神社横田神  
 有子思信す可

坐つ可き御事今更子申すも事舊たり美馬郡鴨神  
 社當國神名帳子阿波郡中野村子賀茂別雷皇大神宮  
 有り同郡加茂村子加茂神社又同郡鴨宮村子加茂大  
 明神有り云り此三處の内子何れを式社あるより  
 又田寸神社を同帳子阿波郡加茂村田寸神社有り  
 云ら此ハ地神本紀子大己貴神次妻坐邊津宮高津姫  
 神生一男一女兒都味齒八重事代主神と有を以見れ  
 ハ此即御祖神にて渡らせ給へれば右の加茂村ある  
 不鴨神社にて余の二處ハ各其別社と見えたりけし  
 又倭大國魂大國敷神二座此御事ハ已子傳廿九  
 一十九丁



子注し奉りし麻植郡天水沼間比古神社天水塞比  
賣神社二座出雲國出雲郡美努麻神社御在し坐し思合  
す可し又秘羽目神足瀨目門比賣神社二座と次の  
て秘ハ猫を誤りしよて猫羽女神の義よりけり統後  
紀子永和九年冬十月辛酉朔壬戌奉投阿波國總佐葦  
稻葉神從五位下三代景録子貞觀九年四月廿三日  
投阿波國從五位上葦稻羽神正五位上同十六年三  
月十四日投阿波國正五位上葦稻羽神從四位下  
元慶三年六月十三日投阿波國從四位下葦稻羽神  
從四位上と有て神階と甚勝とせ給へるを此神社と

り他、當べき神御在し坐するを以思ふ葦の此神  
社の地よて稻羽女ハ八上比賣命と坐あり可し今一  
座の御事ハ未思得ず又當郡射立伊多御有る事上三  
十二子謂ゆる播磨國饒磨郡射楯兵主神社二座の御  
事子思合す可し名方郡天石門別豊玉比賣神社此ハ  
神功皇后御紀の推日女尊の御事よて即三女神坐  
す委し考有て已し傳五し云り大御和神社名東  
郡府中村大御和神社有りと云り又多祁御奈刀跡神  
社帳名西郡誦訪村在りと云る即健御名方神の  
御事よて名方と云二郡名ハ此子起るを見べき

〇和名格長尾  
 〇下五百丁  
 〇伊弉國古郡阿  
 波神社の事代主神  
 本座を杉天明  
 神上中々尾と生  
 の遠有九〇後人  
 の遠有九〇後人  
 此即天降羽之神  
 下御在坐つ可き

あり又勝浦郡勝古神社ハ上 百九丁ニ注る播磨國多  
 可即加都良乃命神社 同神なり此を杉尾大明神と云ふ此下六百八賀茂上社と云ふ  
 神社ハ姓氏録ニ謂ゆる長公の祖として其裔此地ニ  
 在り 下五百三丁長公の事を注すを 見べし  
 夜佐雨久多美乃山と詔給へり所造天下大神の御言  
 有り御縣神社ハ天日方奇日方命の建島女祖命神社  
 の建島ハ地名として女祖命ハ事代主神の御祖神の語  
 り又那賀郡八幡神社帳ニ矢鋒八幡言と見ゆ即八千  
 弋神の略あり可十三代實録ニ元慶七年十二月廿八  
 日庚申阿波國從五位下壇土女屋神八幡神並從五位

尾社  
 〇下五百丁  
 〇伊弉國古郡阿  
 波神社の事代主神  
 本座を杉天明  
 神上中々尾と生  
 の遠有九〇後人  
 の遠有九〇後人  
 此即天降羽之神  
 下御在坐つ可き

〇又神名帳板野郡  
 下莊村琴代社  
 申すも有り

上と有り又建比賣神社の建を多郡と訓り高比賣命  
 あり可きあり 又當郡島根郡有ハ出雲國島根郡ニ  
 神社ニ見えたり 右ニ云々如く美馬郡ニ横田神社  
 建神社坐を思合す可 右ハ天水沼間比古神社天  
 水塞比賣神社ハ茲後國子三瀨郡有り御井郡有就  
 て思合す御井神夫妻子てハ坐ぶる其並びハ天村  
 雲神伊自波夜比賣神社の神ハ謂ゆる水取の事ニ仕  
 奉る也 給へり神子坐を以て云あり且上四十一丁  
 稻羽神ハ坐す引合をも思合す可 神名式ニ讚岐國寒  
 川郡布勢神社此神の御事ハ上 二百丁ニ云り神前神社  
 ハ遊良と云山子御在坐て即神前八幡と申す可  
 即傳十五 三百七丁ニ注る如く即三女神子下渡りせ  
 給へり和名抄ニ神埼 加無郷有り又大藁考神社ハ社

傳小素戔鳴尊坐云云又當郡鴨部鄉見云云  
川郡田村神社名神ハ一宮記子猿田彦命見云即事  
代主神子御在坐十由天孫降臨章第一書子就て  
注す可きあり阿野郡鴨神社三代実録子貞觀七年十  
月九日 授讚岐國從五位 下賀茂神從五位上同  
十七年五月廿七日 授讚岐國從五位上賀茂天神  
正五位下見云和名抄子鴨部加御有り今鴨村云  
子御在坐云云又神谷神社同録子貞觀七年十  
月九日授讚岐國從五位下神谷神從五位上同十七年  
五月廿七日 授讚岐國從五位上神谷天神正五位

上見云今神谷村小御在坐云云九十一注  
丹後國熊野郡神各神社如くハ大己貴神御  
在坐云云又多度郡雲氣神社今世子名高  
子金毘羅神云云又云然時ハ神社本記金平神  
社讚岐大己貴命有是あり同録子貞觀元年正月  
七日甲子詔以讚岐國從五位下雲氣神列於官社同三  
月廿二日戊寅授攝津國正六位上雲氣神從五位下  
有攝津ハ讚岐子作可きあり同二年五月廿日己  
巳讚岐國從五位下雲氣神列官社有此ハ重複不  
り又三井郷有り御井神謂又亦田郡加麻良



神社名神ハ撰津國ト伊豆國ノ三島社トハ故有ニ事  
 代主神ノ共ト御在ト坐す例ありけれバ此ト同ト  
 可キ由傳十一三十一子注一奉り合 二百一十七ト述如ト多枝神社名神ハ  
 右二百十ト注ト阿波國阿波郡田寸神社ト同ト  
 可クして其御祖神ト御在ト坐ベシウリ三代実録ト  
 貞觀二年壬十月十七日 授伊豫國從五位上瀧神  
 從四位下同八年閏三月七日 授伊豫國從四位上下  
 瀧神從四位上同九年二月五日 授伊豫國從四位  
 上瀧神正四位下同十二年八月廿八日 授伊豫國  
 正四位下滝神正四位上ト有テ三島神ト共ト神階ト

進トセ給ヘリ又温泉郡出雲齒神社御在ト坐ハ例ノ  
 出雲大神ト御在ト坐ベト宇和津彦神ト同録ト仁和  
 元年二月十日 授伊豫國正六位上宇和津彦神從  
 五位下ト有リ此神ノ御事ハ上百七十ト事ノ因有テ  
 注セリケ如ク播磨國兵粟郡伊和坐大名持御魂神社  
 名神ト同神ト御在ト坐テ伊和ハ美和ノ轉あり由其  
 風土記ト見元九ルバ宇和ハ又伊和ヨリ再轉ル言  
 多リけリ其證ハ土佐風土記ト神河訓三輪川源出北  
 山之中屈于伊共國水清故為大神 釀酒也用此河水  
 故為河名也ト  
ト云事ト有ルハナリ此等ト合テ其



此國と見し和食  
村ノ降しと手結  
村ノ結濟手結崎  
云有り出雲川土  
敷子部中島根  
郡の地名ナリ

磨國揖保郡式外室戸神社の御事にて心得ハ一又和  
食<sup>カシキ</sup>之郷有ハ阿食の轉多ク思由香美郡大川上  
美良布神社ハ地神本紀ハ八世孫阿田賀多須命<sup>和迹</sup>  
此命鴨部美良姫為善生一男と有リ是<sup>一姫の又相あり</sup>もて其神孫の  
鴨部已ク此<sup>一</sup>在<sup>一</sup>事を知べきあり鏡後紀ハ永和八  
年八月辛丑以土左國美良布神預官社三代実録ハ貞  
觀八年八月七日己卯授土佐國從五位下大川上美良  
布神從五位上と見えたり又長岡郡殖田神社和名抄  
ハ殖田<sup>一</sup>辛惠郷有り或書ハ今在殖田村里人号高加  
茂大明神と有を見ルハ其神の此<sup>一</sup>御佃を始サセ給

公同録ハ貞觀八年五月  
廿二日授土佐國從  
五位下殖田神從五  
位上正六位上殖田  
上神峯本神新平  
神並從五位下有  
此殖田上神ハ若  
大己貴神ホト  
御在<sup>一</sup>坐ハ

右ノ注ヲハルキ  
街子孫ノ鴨部此國  
ノ位ハ

へるふどよ因て然稱奉ル者あり可くや土佐郡都  
佐坐神社<sup>名神</sup>ハ土佐風土記ハ土佐郡之家西去四里  
有土佐高賀茂大社其神名為一言主尊其祖末詳一説  
云大元六道尊子味耜高彥根尊云々有て此ハ雄略  
天皇御世ハ大和より移りて給へりて後の事ナリ  
り神代より此<sup>一</sup>御在<sup>一</sup>坐けり證公目郡朝倉神  
社を風土記ハ土佐郡有朝倉郷ハ中有社神名天津羽  
比神天石帆別命<sup>今</sup>別神<sup>天石帆別神</sup>子也と有て此ハ諺ハ三島  
大神の本后<sup>一</sup>御在<sup>一</sup>坐<sup>一</sup>由傳<sup>一</sup>十四<sup>一</sup>百<sup>一</sup>七十<sup>一</sup>  
注<sup>一</sup>カ如<sup>一</sup>吾川郡天石門別安國玉主天神社ハ其御

父神にて渡りて給へりふと実と神代よりの御事申  
すも更あり嶺多郡伊豆多神社ハ伊豆田う今在下田浦共  
下加江神之間と云り此國と伊豆國とハ殊々相通ふ  
所以こり有けり天武天皇十二年御紀云左國田苑  
五十餘万頃波而為海中伊豆島西北二面自然増益三  
百餘丈更為一島下と有ハ後の事ふが其損益の御  
事御在し坐と云ふも子細有べし然る物も右の  
下田浦の地名伊豆國にも有り又石門別神以下の神  
等西國共立せ御在し坐を以知べし又高知坐神社  
和名抄知多加高市郡有り地神本紀知多加郡味齒八重事

代主神を坐倭國高市郡高市社云こと有る是あり又  
賀茂神社ハ風土記雄略天皇御世都佐坐大神の  
大和より移御在し坐けり御事を知至賀茂之地後遷  
于此社と見え先鎮り給へり官所ありけり又當  
郡字和郷有ハ右の伊豫國字和郡下注るが如く  
伊和美和と一して三輪由有る不

右に引る風土記神河訓三輪川云々為大  
神饗酒也云々古事記日崇神天皇之世倭迹天皇  
為大三輪大神婦云々故時入稱為三輪村社名亦然云



其三輪川と勢殿  
川と云ふこと今に  
三輪川とて三輪社  
ハ伊野村の大黒社  
と云ふことあり

高岡郡三井郷  
と云ふことあり

ここの有る為大神饗酒ハ其御社有る為あり次ハ古事  
記を引くハ大和國の事不<sub>レ</sub>く社名亦然と云ハ此地  
ハ其名を用ふとあり但丈ハ土佐郡ありける三代実録ハ貞觀八年八月七  
日巳卯授工佐國 正五位上神奈地祇神從五位下  
有る地ハ比を誤らざる神奈備國神の謂ある又  
二年三月五日丁巳授工佐國從五位上石神正五位  
下有ハ少彥名神坐ヨリ同年十二月廿三日辛未  
授工佐國正六位上伊勢神從五位下有る此伊勢神  
ハ少彥名神坐ベキ事已ハ上二百五丁ハ注リキ又  
國名風土記云物ハ土佐ハ素戔嗚尊の坐ハ時ハ國  
あり二男ハ心 利ハ器量兄の尊ハ勝ハ時ハ神  
尊を譽奉リ彼尊の心の利ハ兄の尊ハ勝ハ時ハ神  
ニと仰有ハ故ハ其國を土佐と云ハ古き據有  
る事あり置ク者あり 西海道の諸國の事ハ更ハ傳ハ

ズシ雖ハ万葉六二十三十ハ超筑前國宇形郡名兒山之  
時歌ハ大汝小彥名能神社者名著始難目名耳平名兒  
山跡負而云ハ有る此一事を以て其他を想像の奉  
ラ可<sub>レ</sub>御事申すハ更ハ且筑前國の如キハ傳ハ七  
丁ハ注ラ分如ク五十猛神の初<sub>レ</sub>此地を開キ物為  
させ給ハ上ハ彼宗像大神の御靈を鎮メ御在ハ坐  
ナ國ハ一有<sub>レ</sub>けルハ其因ハ宗像郡鐵幡神社一座名神大  
御笠郡寔門神社名神大 あり御在ハ坐ハ又式外上座  
郡福成神ハ其大神の水沼ヨリ宇佐ハ近<sub>レ</sub>せ御在ハ  
坐<sub>レ</sub>け<sub>レ</sub>御時の行宮<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>ハ其大神<sub>レ</sub>就<sub>レ</sub>てハ大

已貴大神と御妹妹の御中よて渡りて給へ凡の表よ  
こすい立せ御在し坐さくめども古事記に謂ゆる宇  
那賀氣理屋至冷鎮坐世の御契ハ何地に御在し坐て  
も違ハせ給ふ事トウリハ各其相座に並御在し  
坐心き御事申すも更あり但國作の御事ハ其よりハ  
以前ありし御業ありければ何れより其大神を主と  
祀る御社無てハ叶ハさる事ありし彼神功皇后の韓  
征の御事ト由有のし世に知るハ給ひて神代ハ事近  
此より一度改りて傳らる可うりければ彼夜須郡於  
保奈牟智神社ハ御紀に令諸國集船練兵甲時軍卒

難集皇后曰必神心爲則立大三輪社以奉刀矛突軍衆  
自聚と有る此も其國神の社を新し建て祭らせ給へ  
らして神ハ神代より此に御在し坐けるふめり又下  
座郡美奈宜神社三座名神大ハ社傳り神功皇后熊襲を  
言向させ給ふ時ハ蜷を集めて城と成し給ひ此三神  
の冥助を仰ぎて勝利を得給ふ祭神ハ中大已貴命左  
素戔嗚尊右事代主命ありと云も本より其地に御在  
し坐す神を此に祀らせ給へる者と思しければ此等  
ハ共ニ國作の御時の遺跡と見奉りて違ハざるに似  
たり三代実録に貞觀元年正月廿七日甲申奉投筑前

和名抄御三郎大  
野御有之其相隊  
ル

國從五位下美奈宜神從五位上と見えたり又上座郡  
麻呂良布神社ハ齋明天皇五年御紀ハ謂ゆる朝倉社  
是ありと云り右ハ注る土佐國土佐郡朝倉神社と同  
ト天津羽三神ハ御在坐三島大社の本后あり  
ハ和名抄三島郷有之事証と為ハききあり万葉四  
ハ不念平思帝云者大野有三笠社之神思知三ハ有  
其十二ハ丁ハ不想平想帝云者真鳥任御名平乃社之  
神思將御知ハ有同ト意味ト其ハ事代主神ハ係  
て詠る亦ハ此ハ三笠社ハ必御在坐ハあり  
其三笠社公夜須郡ハ云提郷有之事亦証ト

為ハ足ルりと云ベ  
代實録ハ元慶元年九月廿五日癸亥授筑前國從五位  
下真天良布神從五位上同三年九月廿七日甲寅授筑  
前國從五位下真天良布神從五位上と有ハ此ハ二昔  
同トハ重復あり可同四年六月三日乙酉授筑前  
國從五位上真天良布神正五位上と有ハ字ハ異ル  
ハ共言同トハ誤ト難言ハ若クハ其ハ以  
前ハ己ハ誤ルハ猶考ハ可キ事あり又和名抄ハ  
席田郡大國郷有ハ大國主神ハ御名ト因ルハ穂浪  
郡三坂郷有ハ周防國佐藤郡御坂神社又筑後國三井  
ハ大國主神ハ坐リ其ハ所以有ルヤ  
郡高良玉垂命神社大國主神ト有ル此二  
社ハ御事ハ傳十八ハ丁上ハ百八十ハ注ルハ如ク播磨  
風土記ハ大己貴神玉依姬命ハ御事を玉帶志比古命  
玉帶志比賣命トハ玉足日子命玉足比賣命トハ申奉

此を文徳天皇實録に高良玉垂命及比咩神と有る  
て其豊比咩神ハ玉垂姫命ハ御在り坐て彼水沼君等  
祭神是也と有る本國神名帳に三瀨郡正六位上玉垂  
媛神と有る是を神代より此に御在り坐す謂ゆ  
下高良社に坐を後上高良社に合せ祀るに此  
姫神ハ御在り坐り豊比咩神と申奉るハ彼瑞珠  
り成出させ御在り坐けり因て豊玉比賣神とし申  
奉り又豊國字佐宮に神代より御在り坐を以て其地  
名を以て負せ奉る御名より然る時ハ此高良社ハ  
大己貴神と玉垂命と稱奉りて甚に上古より此に裔

奉る御事著明き者あり又其郡名ハ御井神の御  
名に由り其神名帳に郡不知御原生葉竹野に正六  
山本四郡之内  
位上卅二前と有る中ニ宗像神宗形草神宗形御井天  
社と有る例ハ水沼神あり大神神社大神神社大神ハ  
佐賀美男神大神ハ佐賀美男神此二社ハ弥酒水男神  
の義あり大神小根古天社ハ大神大物主命に對へ  
て小根子と申す今考ふ可うず小彦神天彦奈古倉  
一本神ハ正しく少彦名命ハ御在り坐すなり又味  
水御井神と申すも見えたり御井郡六十前の中ニ國  
津神大神社ハ右の如く御祖神若草社氣若草 神宗

形金已言神宗形神此五社と上と同トウ可ク比支  
阿志支神阿志支神ハ味稻高彦振神ナリ長柄神ハ事  
代主神ノ例ナリ<sup>三</sup>齋郡借從五位下九社の中ニ酒見東  
社酒見西社ハ右ノ大神ハ佐賀美男神ト同トキク又  
大神社大神社宗形神御縣社ハ天日方奇日方命ヲ奈  
津支神ハ出雲風土記ニ出雲郡腦島有リ由有ク正六  
位上卅四前の中ニ大神社大神社大石兵主神玉垂瓊  
神坐一賀一神ハ出雲國島根郡加賀神社有リ天御古  
神比子社ハ少彦名命ニ坐ベ一又借從五位下三島神  
正六位上十六前の中ニ國玉神但馬神ハ田島ノ石神

社下石神ハ少彦名命ニ坐ベ一山門郡正六位上廿六前  
の中ニ大神神大神社境大國玉神有リ又田島神三沼  
神金疑神ハ三女神ニ坐一鴨下神ハ事代主神ニ坐ベ一  
又國玉神大神國玉神天下地主神白口國玉神大神神  
國玉神國神社ハ例ノ如ク又宗形神ニ有リ伊佐良神  
立石神和伊勢神ハ少彦名命ヲ大石男神ハ播磨風土  
記ニ謂フ<sup>一</sup>伊和大神之子大石命ヲ上妻郡正六位上  
十九前の中ニ國形神<sup>一</sup>國形神<sup>一</sup>國堅神<sup>一</sup>又宗形神有リ三毛  
郡借從五位下三前の中ニ大島神日島神正六位上  
十前の中ニ埴生國玉神ニ有テ全クハ傳ハラズル

とし右の神社の中より國土經營の御時より由有て  
御在り坐すも有べきあり又和名抄御名は御原郡竹  
野郡共は長柄と有る若く  
く長柄は非り然る時姓氏録は長柄首天乃八  
重事代主命之後也と有る思合す可し又御原郡日方  
郷ハ天日方奇日方命の御名の略と見ゆ又生葉郡日  
大石姫治の二郷有ハ播磨國上記ハ大石命見え日  
女道丘の故事有て共ハ伊和大神ハ孫ハ事共あり  
又竹野郡ハ但馬國美含郡竹野郷ハ鷹野神社有て其  
大己貴少彦名命ニ狂て渡りて給へり事傳ハ九卷  
百六十四丁ニ注るか如く又右ハ引り三階郡ハ正六  
位上但馬神と有る思合す可し又御原郡賀賦郷ハ地  
伊國名草郡加太神社ハ少彦名命あり其由有り又  
山門郡大神郷ハ右ハ引るか如く豊前國宇佐郡比賣神  
大神神大神社と有る是あり  
社名神ハ即八幡三所の中の玉依姫命ハ御在り坐て  
即瑞珠盟約章第三一書ハ即以日神所生三女神者使

降居于葦原中國之宇佐島矣云々と有る是なり是即大  
己貴神の嫡后須勢理毘賣命にて渡りて給へり事傳ハ  
八六丁ニ委り注り奉るか如く又田川郡豊比呼命  
神社ハ右ニ注り筑後國御井郡ありと同一神ハ御在  
り坐て彼ハ玉垂媛神と申奉れりを即右の玉依  
姫命の御事ハ坐か已くより此地ハ鎮り御在り坐を  
以て國名を以て稱奉れりもて譬へハ大己貴神を出  
雲大神と申せりか如く此ハ大己貴神の御在り坐と  
云々慥あり傳ハ無水とし大同類聚方ハ中華豊前國  
田川郡豊姫命神社祝中津比古傳方と有る若くハ其

神の遺傳させ給へる事（下）其下毛郡子穴石郷有ハ  
大和國城上郡穴師坐兵主神社名神大月次 穴師大兵 相嘗新嘗  
主神社ふど御在坐て八千文神の渡り給へハ  
其神迹より非ナクと思ゆ又豊後國大野郡西寒多神  
社ハ上五十 六丁子注るが如く相模國足柄上郡寒田神社  
の東より對入て此を西といふ云ふり此を八幡宮  
と傳ふるハ例の三女神にて御在坐あり可一三代  
實錄に貞觀十一年三月廿二日 授豊後國无位西  
寒多神從五位下と有り應神天皇の八幡宮子神階を  
被進例無レハ此ハ決ク例の玉依比賣命子御在

坐へ一又海部郡佐井郷有ハ大和國城上郡狹井坐  
大神荒魂神社五座鞆と有子由有り又大分郡神前郷  
ハ例の大己貴神の后神を何國にても神前神社と祀  
る事上件條より云り速見郡大神郷ハ本より大物主  
神子由有り又國埼郡田添郷ハ出雲風土記子島根郡  
手添郷略所造天下大神命詔此國者丁寧所造國在  
詔而故丁寧負給而今人猶謂手添郷之耳と有る斯る  
御事共此子御在坐たりけむ又當國郡子  
杵築と云地有子其地子眞名井と云有出雲子同トキ其海中子  
神島カウノシマと云有り其島子酒壺二有を共年子飲を炊きて

納置く時ハ翌年の祭日に至りて醇酒と成水とを神  
と奠る事古りの例とて其所以を知る人無いと云  
るハ彼美和大神の神酒を醸し御在り坐ける御事  
を以て思ふ神島ハ美和島と云べきや  
或書ニ平家物語ニ  
豊後國祖母岳明神の事を云事三輪の故事子同ト大  
友興廢記ニ此説を載せて猶委一彼國ハ豊後國入  
田名宇田村に配流有し其女は祖母岳の神通ひ弘  
小田名宇田村に配流有し其女は祖母岳の神通ひ弘  
仁二幸卯年三月五日一男子生す是大神朝臣惟基不  
り云り今佐伯氏其子孫にして伊勢津に在り云  
こと云り大神朝臣ハ本より大國主神の子孫あり  
其國に在りて然る附會の説ハ出来り者  
祖母岳明神ハ実ニ其神に御在り坐べし伊豫  
風土記ニ湯郎大穴持命見悔耻而宿奈毘古那命歎活  
而大分速見湯自下極持度來以宿奈毘古那命歎活  
云々有て伊豫の温泉の湯元ハ其大分速見の二郎

あまを以て二神より始て其神迹ハ多ク  
傳りぬところ有けれ今も尋ねぬむ  
の口傳ハ遺る事肥前國松浦郡田島坐神社名神ハ宗  
と必有ふむし  
像大神御在り坐す御事傳十五  
四百三十三丁ニ注るが如  
然るに此頃大同類聚方を見ら其卅一卷子川上  
藥肥前國松浦郡田島坐神社之宮造同國小城郡川上  
之北麻呂之家仁傳不流處之方元者大己貴命之神方  
と有ハ此邊ニ其神の傳置し方の遺れ多ありけれ  
ハ其同社別社何れあり鎮り御在り坐ふめり佐嘉郡  
興止日女神社ハ頭注ハ風土記云人皇卅代欽明天皇  
廿五年甲申冬十一月朔日甲子肥前國佐嘉郡興止日



三河風土記八名  
都篠谷八幡之町  
祭所止也と有  
其玉依姫命也  
又上御守也  
廣川土記託宣部  
黒田里之字形大神  
伊和之御子也  
有之尾張國葉栗  
郡黒田神社之民部  
有圖帳之記比呼命

神有鎮座一名豊姫一名旋姫乾元二年記云旋姫大明  
神者云々三韓征伐之昔者得干満而顛而没異域之凶  
徒於海底云々河上大明神是也と有て右に注せり如  
く筑後國御井郡玉垂命神社高良名神  
有て並給へり其を玉垂命の比呼神と御紀に書さ  
せ給ひ國帳に玉垂媛神と有り干満而顛を得給へ  
り廻り云々如何ふれども實に同神にて渡り給  
ふ可き御事ふり三代實録に貞觀二年八月八日  
進肥前風從五位下豫等比呼大神從五位上同十五年  
九月十六日 授肥前國從五位上豫等比呼神正四

云々と有り此の邊比呼命豊比呼命等子宗が大神同傳の事を明らむるに足り云々下三十九考合す可

位下と見えたり此に又大同類聚方六十九に大國藥  
肥前國佐嘉郡與止日女神社傳元者少日子名命神前  
遠飛鳥宮坐治天下天皇御宇奏之と有と右の川上葉  
を合せ考るに必其二柱神共此國を相作らせ御  
在に坐けり御時の遺方有て此の傳にれ多ありけり  
又式外より三代實録に貞觀二年八月八日 進肥  
前國從五位下久治國神温泉神並從五位上と有久  
治國神ハ大己貴神に坐へく温泉神ハ二柱神を祀り  
あり可き事申すも更ふり又稻佐神と申す有り同録  
大同三年八月廿四日 授肥前國正六位上稻佐神

從五位下仁和元年二月十日 授肥前國從五位下  
 稻佐神從五位上と有り出雲國出雲郡因佐神社同神  
 う又甘南備神と聞ゆ有り同録は貞觀十二年正月  
 十一日 授肥前國正六位上南備神從五位下と有  
 八事代主神子御在坐べし又宗形天神と申すも御  
 在坐才其御事ハ傳十五四百三十三丁注一奉承りき又  
 葛木一言主神と申すも見ゆ同録は同十五年九月十  
 六日 授肥前國正六位上葛木一言主神從五位下  
 と見ゆ知名抄は三振郡葛木加都良木郷有は是れ又神島  
 神と申す有り同十八年六月八日 授肥前國正六

位上神島神從五位下と有七國神子御在坐べし又  
 類聚符宣抄は太政官符神祇官正六位上東屋明神大  
 神明神並坐肥前國并今奉授從五位下延喜廿年十一月云  
 と有う大神明神と上件の所申よ合る者あり但共神島  
 神の御事ハ平戸人因田端類と云人の説して或書は  
 載たり平戸島の西隅より海上七里小値賀島と云  
 二島の近き島は神島と云ふ小島は神社有り神島明  
 神と云ふ神功皇后新羅より還幸の頃從奉る伊波  
 夜丸と云人の靈を祀りて云ふ此人の兄を登於伎  
 別命と云ふ志自皮神社ハ其靈を祀りて云ふ海中有  
 自然石の島居は似たり門有て其島は石の神社有り  
 是を本社とす小値嘉島は佳き社有て常は是れ詣  
 づと云り有り此ハ史籍に更に傳りて人の名ふれ  
 ハ體は定む可う此第ハ一書に謂ゆ素戔鳴尊五十  
 猛神の御事あり可一志は伎神社ハ松浦郡式社不

リ 神名式ニ肥後國阿蘇郡國造神社ハ一ノ國造本紀  
ニ阿蘇國造瑞籬朝御世火國造回祖神八井耳命孫速  
瓶玉命之賜國造ト有ニ依テ此命ヲ祀ル者ト云ハ  
然ル事不ガク此神名ハ國能御臣神トハ訓ナ古來國  
作神ト唱來ルハ上<sup>四十</sup>五<sup>十</sup>國作大己貴命ノ所ニ注  
ガ如ク此次ニ引ク大隅風土記ニ大隅郡事ト鄉昔  
者造國神勤使者遣此村令見消息云々ト見え三代  
實錄ニ仁和二年六月廿八日丙子授常陸國正六位上  
鄉造神從五位下ト見えたり此造國神鄉造神共ニ國  
作神ト訓ベキニ就テ思フニ此モ其速瓶玉命を合

セ祀ルケシハ然ル物ニ本ヨリノ國作神を齋奉  
ルニ神社アリ可ク不思えたり統後紀ニ養和十四年  
七月甲子朔丁卯肥後國阿蘇郡國造神為官社焉ト見  
えたり又玉名郡足野神社ハ味耜高彥根神ニ御在  
ト坐ズル大同類聚方五十六ニ多滿娜藥肥后國玉  
名郡令磐橋多麻呂上奏方元者阿蘇鉏高日子根神御  
藥ト有ニ是アリ同紀ニ養和七年七月甲戌朔庚子以  
肥後國玉名郡足乃神預官社焉ト見えたり又山鹿郡  
溫泉郷ハ大己貴女彥名ニ柱神の始給ヘテ御事今云  
限ニ非ズ神西郷ハ例の鴨西の義不<sup>レ</sup>可<sup>ク</sup>菊池郡上

水島御ハ景行  
天皇御紀ニ謂  
水島トハ別ニ此  
ハ三島アリ可ク

甘郷ハ事代主神、由有べくして右の對子神東下甘  
ハ村名あどよて遺りたり可一又大同類聚方十九子  
伽羅靈令葉姫島直鴨戸等之家の方より有る姫島直ハ  
葦北郡の著姓あり鴨戸葦北郡の著姓あり鴨戸地名を以  
て負る者にて此郡内より何れハ鴨部の地有る事を曉  
る時ハ大已貴神以下の神迹此より多きを觀奉る事足  
なり其十二卷ハ日女志滿葉肥后國葦北郡姫島美  
麻呂之家所傳元者遠飛鳥宮治天下天皇之御時  
委之又六十四卷ハ日女之馬葉肥后國葦束丹郡媛島  
奈保之家の方より有るを以見此ハ姫島と云地有る若  
くハ此ハ玉依姫命不の御在り坐るや又其異本  
ハ火國葦葦北郡姫島直直ハ彦名命の方也よ見  
り傍神名式ハ日向國見湯郡都農神社一宮記ハ大已

命と有り頭注り一宮也大已貴命と見えたりを風  
土記ハ都農郷土地中肥民用不少有神号都農社所  
祭饒速日命也よ云ハ白井郡米上郡有るも合て丹  
波國ハ申有ルハ其神ハ御在り坐るや此ハ主  
と大已貴神を祀れりあり可一統後紀ハ永和四年八  
月壬辰日向國子湯郡都農神妻神云々預官社同十年九月丙戌  
朔甲辰日向國無位都農皇神奉授從五位下三代實錄  
ハ天安二年十月廿二日己酉授日向國從五位上都農  
神從四位上と見えたり又都黨神社左の統後紀ハ永和四  
年八月壬辰日向國子湯郡都農神妻神云々預官社ハ



く御在坐申見え又上八十一丁ヲ注せり能登  
國珠洲郡須之神社ハ饒速日命と思しき羽咋郡氣  
多神社名神大ト所以有り又上百十丁ヲ云ら  
如く彼天日槍命ハ夫ク其神ヲ坐と初ハ御軍あど  
御在坐一々ト後ハ互々共々大隅風土記ハ大  
隅郡串ト郷音者造國神勤使者造此村令見消息使者  
報道有髮梳神可謂髮梳村因曰久四良郎髮梳者卑人俗語久四良  
今改曰有造國神ハ國作大已貴神の御事あり可  
由右ハ肥後國の所ヲ注リ此使者ハ供奉神ナリ髮  
梳神ハ卑人の國神を云て此ハ國作大已貴神の始  
入立一御在坐けり御時の御事と見えたり神名式  
ハ贈於郡大穴持神社御在坐り其ハ傳廿九百七  
十二

丁一統紀を引て注太平寶龜九年十二月是月西方有聲似雷  
非雷時當大隅薩摩兩國之堺烟雲晦冥奔電去未七日  
之後乃天晴於鹿兒島信尔村之海沙石自聚化成三島  
炎氣露見有如右鑄之為形勢相連望似四阿之屋為島  
破埋者民家六十二區口八十余人と有ハ此ハ留り御  
在坐神靈の新島を築らせ給へり太平神護二年  
六月己丑大隅國神造新島震動不息以故民多流亡仍  
加賑恤と有ハ右の新島の初動き止りし統紀ホケリ又寶龜九年  
十二月甲寅去神護中大隅國海中有神造島其名曰大  
名持神至是為官社と有ハ其神造新島の全く成訖九

ろに依て本よりの大穴持神社を官より祀るを給へ  
 ろ御事と見ゆ然らずに此に始て新島の成出たれに  
 して其推量より大穴持神といふ事てり云定む可き又  
 斯る御事の御在し坐し就てハ神託亦どハ必有べり  
 こと申すも更なり土人説ハ今栗原郡國分郷に在  
 り所祭大己貴命少彦名命大歳神三座あり此地に神  
 造島と云有り今神島とも宮瀬とも云と云り薩摩國  
 子ハ然せり神迹も思えざれども阿多郡阿多郷有る  
 地神本紀に三世孫天日方奇日方命亦名阿田都此命  
 娶日向賀年度美良姫生二男一女と有るを見れば此

又水學問耶徒命  
 神吾田神姫命申  
 奉り此地に就た  
 る神名も此に  
 上寄り事有  
 九下り已に注せ  
 るを考合す可し

地より由有る事云も更ふれば亦名の阿田ハ此の阿多  
 あり都史志居ハ筑紫根よて專西國と造給へり御事  
 子係列ハせ給へりありて古日向と云ハ此邊を凡  
 賀年度ハ阿多郡ありり和名抄葛例郷有ハ其ハ  
 非の猶考不可一偕天孫降臨章第一書ハ御天降  
 の御事を書して次ハ齋完空國自頃丘覓國行云到於  
 吾田長屋笠狹之御崎時彼處有一神名曰事勝國勝長  
 我故天孫問其神曰國在耶對曰在也因曰隨勅奉矣故  
 天孫曰往彼處其事勝國勝神是伊井諾尊之子也亦  
 名塩上光翁と有る其事勝國勝神云ハ記者の文子  
 て古傳ハ非ず其神ハ猿田彦神の御事より其ハ事  
 代主神とて渡りて給ふ可き委しり神名式ハ壹岐國  
 考有れども此に注さざり神名式ハ壹岐國  
 壹岐郡兵主神社名神壹陽略志と云物子河北村に在  
 り正一位兵主神社と云祭神ハ大己貴命と有り此

大神の八十戎神と御在り坐て國土の荒振神を言向  
させ御在り坐けり御政の遠く此二島小及ハセ給へ  
るを見奉り知べきなり三代實錄の貞觀元年正月廿  
七日甲申奉<sub>レ</sub>殺<sub>レ</sub>壹岐國從五位上兵主神從五位上と有  
る是より國片主神社略志の國分村に在り所祭少彦  
名命ありと云と有り上田百樹主の書入り國堅主の  
義あり有り実子謂れなり中津神社名神ハ知名故子  
那賀郷有り地神本紀の市杵島姫命亦名佐依姫命亦  
云中津島姫命坐<sub>レ</sub>宗像中津宮是所居于中島者也と見  
えたり子思合す可し略志に在<sub>レ</sub>新城村と云ひ石田郡國津神社を略志の渡良

村に在りといひ大國玉神社を志原村に在り云り備  
大同類聚方十の六里葉紀伊國那賀郡荒田神社傳方  
元者彦火と出見命壹岐國石田郡石田山乃神仁得給  
布方也と有る此石田山と云ハ此郡の石田郷有る其  
山に御在り坐す神とい聞えたり今何れの御社と  
ハ指定む可らずと雖も決く大己貴少彦名二柱神  
にて渡り給ふ可なり又神名式に對馬島上縣郡  
島大國魂神社ハ素戔嗚尊神代より御在り坐けり小  
神功皇后韓征の御時ハ大三輪神を合せ奉り給ひ  
又島大國魂御子神社ハ事代主神に渡り給ふ事傳



世三十三百三十七  
 傳廿九百八十  
 神所祭大己貴  
 兼和八年八月戊戌朔戊午奉授對馬島无位胡祿  
 神從五位下三代實錄貞觀十二年三月五日  
 對馬島從五位上胡祿神正五位下と見ゆ又胡祿御子  
 神社ハ右の如く事代主神子御在坐ハ統後紀  
 兼和四年二月甲午朔戊戌對馬島上縣郡无位胡祿  
 神奉授從五位下三代實錄貞觀十二年三月五日  
 授對馬島從五位上胡祿御子神正五位下と有り又

之後也と有を以て此邊に其氏人の多く住へり事  
 知る又加津良神社ハ上百九十注せり播  
 磨國多可郡加都良乃命神社大津乃命神社並給へり  
 思合す可即事代主神の本名天御振日女命の御事なり茨川郡鴨高田神社黒田神社此も亦右  
 の多可郡に黒田郷有を凡土記小黒田里袁布山者昔  
 宗形大神奥津島比賣命姪伊和大神之子到來此山云  
 我可産之時訖故云袁布山と有り由有又丹比郡大  
 津神社三座と云見元たり右の加津良神社ハ  
 あり阿麻美許曾神社天稚彦あり可思元たり播磨  
 若江郡加津良神社相並坐り天稚彦下照姫二神相並給へり

△天津羽々神

上下百平平河  
國宝飲郡津津神  
社石座神社伊芳  
合下伊豆國  
賀月郡伊波久良  
和命神社大津  
往命神社見ゆ

所以と見 和泉國ハ本河内國の内ありトバ九て別  
ゆりり△ 心得へきト非すと雖も殊ト國作生ト神等ノ御由  
縁多く見えたり 風土記ト大鳥郡古老傳云昔素戔嗚  
尊御子衝梓等乎而當比古命巡行此國詔吾御體衰坐  
詔而靜坐故云於登利今謂大鳥者訛也ト有る此御事  
ハ己ト傳十六 二百七十七 九丁ト注ト奉るが如く大  
鳥神社 名神大月 大鳥神社 歟ト有る是トあり美多弥神  
社ハ出雲國出雲郡美談神社有リ押別神社ハ其風土  
記鳥根郡方結郷條ト須佐能鳥命御子國忍別命ト有  
ト思合す可く生國神社 歟ノ御事ハ傳廿九 百十ト注

風土記ト御祖神社  
所宗別當神也ト  
と見ゆ又

船公海登子山崎非若今高瀬舟也ト有て中古迄も然  
り況て久代の状想像ト可ト其攝津國の方トて七後  
ト島上島下豊島ト云ニ三郡ハ古ト三島ト云て其も  
海中ノ島嶼ありト埋れて今ハ一面ト成れト上  
古ノ事ハ其心ト考ふ可トあり先國作ノ古を考ト  
トハ河内國石川郡大國郷見え神名式ト鴨習ト一本太  
神社高安郡御祖神社鴨神社河内郡梶無神社河内志  
ト今称船山明神社北地名梶無ト有ト就て考ト大  
和風土記ト平群郡船山神社大己貴尊也ト有ト思合  
ト可ト大津神社ハ上 百九十ト注トか如く播磨國多

無明社女等其ト一ト

可郡大津乃命神社ハ下照姫命ニ御在ニ坐べく思由  
りト同トウリ可クして上古ト大己貴神の津泊を足  
させ給へるト因れり今水走村ト云子坐ケ此  
地ハ上古の津泊ふりト見由讚良郡津輝神社ハ衝  
輝ハ略マて彼平國之廣勇を杖せ給ひト謂リ又國中  
神社ト由有リ茨田郡佐太郷ハ猿田彦神ト思合セ  
ル三井郷ハ御井神ト由有ベト又古事記水垣宮段ト  
意富多ト泥古命の事を於河内國之美努村見得其人  
貢進ト有ハ若江郡三野縣主神社二座ト有リ此地不  
了ト又長柄神社姓氏録ト長柄首天乃八重事代主神

一凡立記ハ和泉郡  
上神郷有神号上神  
社所祭思心姫命也  
ト有ハ式外キリ  
何キ

一奉ルリ國神社鴨田一本無神社の例ハ常の如ク又  
上神加無都御有リ皆和泉志ト下神郷ト云ト得去トキ由縁あり和  
泉郡泉元師神社二座兵主神社ハ共ト八千弋神トて  
渡ルセ給へる事傳廿九百二十ト委トク明ルメタル  
カ如ク山直神社ハ風ニ記ト山直郷有神号山直明神云ト所祭  
神須佐能雄尊也ト見え積川神社五座鑿ハ傳ハ六百二  
三ト子注リカ如ク社記ト生井福井津長井波比岐阿  
須波神也ト云リ上の三神ハ謂ゆる御井神ト御在  
坐セバ大己貴神の御子トて渡ルセ給へるト上泉加  
都美 郷下泉郷有リ此神ト就ル御事あり日根郡



又難波の古國を見  
る高野崎と云名  
有り母氏録の  
長公の長し奈胡  
の地と記し思  
ゆら由有て下十五  
子注ちり如く又  
難波長柄島に  
すし長柄の事代主神  
に由有て地を三行  
実録に元慶元年十  
月八日已未授標津  
國正六位上長柄神從  
五位下と見ゆ

子も生島高神之地と有て此大神の御在り坐す御事  
 子起り地名あり者あり万葉三二丁子久方乃天之  
 採女之石船乃泊師高津者淺尔家留香裳と有て神代  
 の遺趾混三可くも非ず亦む有けりを此子比賣許曾  
 神社名神大月次と坐す此を臨時祭式と亦号下照比  
 賣と書す此三代実録子貞觀元年正月廿七日甲申奉  
 授攝津國從五位上下照比賣神從四位下と見元たり  
 又阿遲速雄神社風土記子味鉏山音味鉏高日子根命  
 坐故云味鉏山後号味原と有ハ和名扱子謂ゆ味原  
 御是ふり又西成郡坐摩神社大月次子ハ御井神の御

大島神社ハ彼中津神社と同一く可く下縣郡敷島  
 神社ハ大國魂神と坐べり三代實録子貞觀十二年三  
 月五日授對馬島從五位下敷島神從五位上と乃  
 見たり何を以て大國魂神と御在り坐す云子傳廿  
 九卷九十一丁子注るが如く阿波國美馬郡倭  
 大國玉神大國敷神社二座と有と相等しき神名と坐  
 せハ在り又上縣郡那須加美刀金子神社ハ下野國那  
 須郡健武山神社ハ素戔鳴尊とて渡り給へり統  
 後紀子兼和二年二月丙子朔戊戌下野國武茂神奉授  
 從五位下此神坐採汝山之有る此神の御子と坐  
 を以て金子神と申奉りて即金凝の義ありて即宗  
 像神と渡り給へり傳廿八卷十一丁子注るが如  
 一即三代実録子貞觀十二年三月五日授對馬島  
 從五位下奈蘇上金子神從五位上と見元たり又大同  
 類聚方十一卷子太計多葉對間國下縣郡阿麻呂苗神  
 社之宮人箇田連重宗之家二傳流方元者少彦名命神  
 方と見えたり當音少彦名神の此子傳置りたりけ

の日本書紀傳三十一

〇二百四十

一 猪笥丹の較略ハ上三十三丁ノ注ヲカ如ク丹波國の湖  
 水を穿ちて大井川を通し給へルハ此御時ノ流下  
 させ給へり工沙を埋めて山城河内攝津等の水理自治りて國  
 思ゆ事ふるが今地理を察する山城國乙訓郡山崎  
 と久世郡男山とを限りて下ハ一面ノ入海あり一状  
 不り神武天皇戊午年御紀ノ溯流而上徑至河内國草  
 香邑青雲白肩之津と通證生玉木翁曰今茨田郡枚方蓋白肩之  
 轉語枚方邊有穢折今之擬原淀川邊有唐哥相傳皆番  
 泊泊宿之遺名也古事記作泊白肩津今據欽明天皇御紀發自難波津控引  
 船於狹之浪山日本後紀山崎洋略土佐日記亦言泊山崎然則中古猶巨

根陽群於實茂  
 神社加毛村在り祭  
 神別當余と有る是  
 あり又  
 事ハ上ノ注ヲカ  
 此天照大神荒菟子  
 坐を松尾山山崎神  
 申宮殿高明知宗像  
 神ノ其相殿ノ御在  
 坐一又民部省國帳  
 廣天神神臺女房  
 名命控見以在神臺  
 二座相殿大と貴令國  
 韓神也と有る是令國  
 御事也と有る是令國  
 所以有御事也と有る  
 傳十六百二十九三丁ノ  
 云り

在ノ坐す御社ふるふども思ふも此生島高神之地ハ  
 十ノ國作の御時ノ大神を始奉りて御子神諸共ノ御  
 在ノ坐なり地ありけり若て島下郡三島鴨神社溝咋  
 神社鞆ハ下百丁ノ注ヲカ如ク事代主神溝穢姫命  
 相嫁継ガノ御在ノ坐けり神迹あり河邊郡鴨神社多  
 太神社坐ノ和名抄ノ大神郷有り又武庫郡廣田神社相繼新嘗ノ御名次神社  
 大月次ト有ハ名ハ阿那の略次ハ新嘗ヲ味耜高彥振神  
 子坐ベノ万葉三二十丁ノ吾妹見二猪名野者令見都名  
 次山角松原何時可將示と有ハ今七名次岡と云て此  
 社地ふる有馬郡神尾村子名次山と云有る其神



